

本日ここに、岩国市新市誕生 20 周年記念式典を挙げるにあたり、一言御挨拶申し上げます。

本日は、年度末の公私共に御多忙のところ、御来賓の皆様、並びに市民の皆様に広く御臨席を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。

本市は、平成 18 年 3 月 20 日、1 市 6 町 1 村の合併により誕生し、北は吉賀町、東は大竹市や廿日市市、和木町、南は柳井市、西は周南市に接する広大な市域に、美しい山々や清流、瀬戸内海といった豊かな自然を有し、多彩な歴史や文化に包まれた自治体として、その一歩を踏み出しました。

今日に至る道のりに思いを馳せますと、決して平坦なものではなく、各種制度の調整や社会基盤の整備など、多くの課題を抱える中、在任特例により当時、全国でも最多となる 112 名もの議員で構成された新市議会の皆様と共に、その課題の一つ一つに向き合いながらの船出でありました。

また、私が市長に就任した当時は、基地問題に端を発して、市政は混乱し、本市はもちろん、周辺自治体や経済にも大きな影響を与えるなど、先行き不透明な混沌とした状況下であり、私は、市民の間に分断と対立が生じていたことに強い危機感を覚え、「対立から協調へ」の理念を掲げ、「市民の心を一つに」という思いで、全力で市政運営に取り組んでまいりました。

また、その後の各種自然災害や新型コロナウイルス感染症への対応など大きな困難にも直面しました。

この 20 年間に於いて、本日御臨席をいただいた皆様を始め、議会や職員、そして市民と共に、多くの課題や困難を乗り越える中で、新市としてのまちづくりはかたちとなり、一体感は確かなものになったと考えております。

改めてここに、深い敬意と感謝を表する次第であります。

後ほど記念映像でもご紹介いたしますが、これまでのまちづくりについて、主なものを御紹介いたしますと、交通・交流の拠点として大きな役割を担う「岩国錦帯橋空港」は、平成 24 年の開港から 13 年を経て累計利用者数 520 万人を突破し、山口県東部の空の玄関口として定着いたしました。

また、平成 20 年には岩国南バイパスが開通し、現在は岩国大竹道路や藤生長野バイパスの整備が国により進められるなど、道路ネットワークの整備が着実に進められているほか、平成 24 年には J R 岩国駅のバリアフリー化や東西自由通路が完成し、令和 6 年には南岩国駅のバリアフリー化に伴う駅前広場の整備など、誰もが移動しやすい都市基盤の構築も着実に進んでおります。

安心・安全の面では、平成 25 年に愛宕山地区に岩国医療センターが新築・移転され、平成 28 年には同地区にいわくに消防防災センターを整備し、昨年には市立美和病院の移転整備を行うなど、医療・防災体制の充実を図ってまいりました。

また、基地との共存を掲げる本市では、日米交流として、絆スタジアムなどの日米共同使用や、英語交流センターの開設、そして都市交流としては、昨年、鳥取市と姉妹都市提携 30 周年を迎え、さらに、沖縄県宜野湾市と新たに姉妹都市締結を行うなど、国際交流・都市交流の歩みを新たな段階へと進めております。

一方で、「子育てするなら岩国市」をスローガンにさまざまな子育て支援策を実施し、医療費や小中学校の給食費の無償化を始め、予防接種費用の助成などを実施したほか、学校統合に伴う「玖珂小学校」の改築、本市初の施設一体型校舎となる小中一貫校「岩国ひがし学園」を開校しました。

さらに、誰もが憩い集うことができる公園として、大型複合遊具を備えた玖珂総合公園や愛宕山ふくろう公園を整備しました。

また、タクシー料金や補聴器購入費の助成や、療育センターの整備など、高齢者、障害者の生活の質の向上や社会参加を支援してまいりました。

このほかにも、市役所本庁舎の整備を始めとし、地域の拠点として、玖北地域では錦総合支所と本郷支所・本郷ふるさと交流館を、玖西地域では周東総合センター「日向」と玖珂総合センター「奏」の建て替えを行いました。

また、黒磯地区において、福祉・科学学習施設として整備を進めておりました「いこいと学びの交流テラス」は来月4月に、建替工事を行っておりました中央公民館を中心とした複合施設「M i r a i d o」は6月にそれぞれオープン予定であります。

本日迎えた合併20周年は、その節目を祝うと同時に、皆様と共に歩んできた20年の歴史と、その成果を礎に、次代を担う子供たちに、誇れる岩国を引き継ぐことができるよう、更なる飛躍に向けて扉を開く「新たなスタートライン」でもあります。

時代は今、人口減少や少子高齢化が進行する中、AIを始めとしたデジタル技術等の進展に伴い、経済や社会の在り方、産業構造が急速に変化しており、今後さらに、多様化・複雑化する地域課題などにも対応でき得る持続可能な社会づくりが求められています。

このような状況だからこそ、「力強くも、やさしく、しなやかに、市民と共に歩むまちづくり」という理念の下、変革を恐れず、職員と一丸となって、新たな挑戦を続けてまいります。

御臨席の皆様を始め市民の皆様には、今後とも力強いお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本日ご臨席いただきました皆様方のご健勝とご多幸、そして岩国市の、次の30年、50年に向けた更なる飛躍を心より祈念いたしまして、式辞とさせていただきます。